



スマートシティ素論

令和6年6月30日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

デジタルパスポートと通信端末、スマートマネー、地図との連携におけるデジタルサービスとメタバース、通信の統一などにおける、新しいデジタルサービスと社会の基幹インフラの整備は、統一規格におけるスマートシティの構築を提案するものである。

これらデジタル社会の基幹インフラの整備は、デジタルパスポートにおけるスマートマネーシステムと自己認証を基盤に、すべての現実のデジタル化は、ビッグデータの分析と管理、統一化された規格におけるデジタルサービスの構築における新たな技術社会の建設を求めるものである。

また地図と連動するデジタルサービスのフレームワークと標準化したメタバース環境は、通信端末やカーナビゲーションと連動し、デジタル社会の建設とその新しい生活システムの整備を提案できるのである。

またすべての通信環境は、統一したアドレスにおいて標準化されるものであり、これら統一アドレスは、デジタルパスポートにおける自己認証とともにすべてのデジタル社会における統一した自己認証やアドレス、IDとしての構築を提案するものである。

これらは IoT がコミュニケーションと通信における基幹インフラとして、統一されたアドレスにおけるサービスの標準化を行うものである。

地図と連動するデジタルサービスとメタバース環境は、すべての店舗や個人がデジタル社会において、そのフレーム枠の下、自らの現実の構築を行い、これらデジタルサービスの標準化とともに、そのすべての現実のデジタル社会への転換を提案できるものである。通信端末における GPS における多様なサービス、カーナビゲーションと連動する新たな可能性などの提案が可能なのである。

スマートビルやスマートオフィスなどにおけるビジネスユースにおいて、スマートキー、自己認証、電子名刺などにおける可能性を提示できるのである。



スマートホームにおける新しい現実、スマートキーやITアクセスにおけるパスポートとして提示できるものである。

これらはシェアエコノミーにおいて、自己認証、ID、スマートマネーとしてのデジタルパスポートの提示など、デジタル社会とインターネットにおける自己認証とスマートマネーの標準化などを提示できるものである。

次世代交通機関への転換は、すべてのインフラ整備を新たにこれら新規基準において要求されるものである。

これらは既存アナログ社会の転換であり、ビッグデータの管理と分析における自動化は、新社会システムの構築を行うものである。

これらは半導体という頭脳が、これらすべてのデータの管理分析を行うものである。

これら新技術社会への転換は現在の経済の趨勢における変化であり、行政環境とともに、社会が新たな技術IT社会への転換を模索していることは真実なのである。

これらは、経済政策とともに、新しい社会都市デザインを求めることは時代性においてその必要性を与えるのである。

これらはコンピュータがその自動化とともに、新しい現実への転換を与えているものであり、これらは社会と生活、産業の転換を明確に今日有するのである。

上記アイデアは、これらデジタル社会における基幹インフラ整備への提案であり、そのバックボーンとして新たな可能性の拡大を提案するものである。

これらは明確に新しい技術文明への転換を行うものであり、社会システム、経済システムにおける新しい枠組みの要求は存在するのである。

これらの実現へ、行政計画の作成と、産学官連携における新しい都市社会計画の作成は、これら現実への移行をその規格の作成と標準化において可能とできるのである。